

平成28・29年度 校区教育協働委員会

学校評価表（最終報告）

【成果・取組指標に対する評価と評定コメント】

学校名 品川区立伊藤学園

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○小中一貫教育要領で示されている基礎的・基本的な知識、技能の習得に力を入れるとともに、「理解」「学びあい」「教室の雰囲気」を大切にした授業を展開する。 ・5年生以上の教科担任制、加配教員や都・区配当の講師、指導助手を活用した少人数授業、習熟度別学習、TTを実践する。 ・市民科と各教科を関連させ、「学習の決まり」を基に学習規律の徹底を図る。 ・校内研修を活用し授業力を高めるシステムを構築するとともに指導教諭を活用しながら、ベテラン、若手それぞれの授業力を高めていく。 ・学力の分散化を踏まえて、家庭への啓発を強めるとともに、個に応じた指導と家庭学習に関するきめ細かい指導を行う。 ・英語検定、数学検定などについて、児童・生徒や保護者に周知し、積極的に取り組ませる。					
評価指標	成果指標	成果指標の達成状況の説明				評価	今後の課題と改善策
	取組指標	取組指標の達成状況の説明					
①	「東京都学力の向上を図るための調査」および「全国学力学習状況調査」において各教科の平均を5ポイント以上上回る。 品川区学力定着度調査において区の平均を上回る。	【全国学力・学習状況調査】 29年4月実施 6,9年 国語、算数・数学 ・国語は平均を5ポイント以上、上回ることはできなかった。 ・算数・数学はA(基礎)問題、B(活用)問題ともに全国平均を5ポイント以上、上回った。 【品川区学力定着度調査】 29年4月実施 2~9年 国語、算数・数学、社会、理科、英語 ・ほぼ全学年で区の平均正答率を上回った。 ・3,4年生は全教科で区平均を下回った。 ・9年生は全教科で区平均を大きく上回った。				B	・全国調査、品川区調査ともに、複数学年において国語科で目標値を下回った。領域別に見ると特に「書くこと」の正答率が低かった。 ・今後の課題は、児童・生徒の「書く」力を伸ばすことである。 ・今後は、国語科における「書くこと」に関する指導の系統性を見直しを図り、スモールステップで着実に書く力を伸ばしていく。また、他教科においても、書く機会を増やしていくことで、日常的に書くことに関する指導を充実させていく。
	学年、教科部会を中心に、学力調査結果を分析し、課題の把握、解決に向けた指導や家庭学習の提供方法を共有し、確実に取り組む。	・東京ベーシックドリルを活用し、習熟度の確認と、そのフォローを学年・教科で行った。 ・休み時間や放課後に補習を行い、基礎・基本の確実な定着を図ってきた。 ・特に漢字、計算については家庭学習も含めて、計画的に反復学習の機会を設け、習熟を図ってきた。					
②	保護者アンケートの項目3「授業は分かりやすく、児童・生徒の実態に合わせた工夫がなされていますか」で、肯定評価を80%以上にする。	【28年度前期】88%で達成。 【28年度後期】88%で達成。 ・学年便りを通して、授業の様子を伝えている。また、学校公開では保護者と話をしてクラスの実態を伝えている。 ・生徒の実態に合わせ、わかりやすく授業を展開するよう心掛けている。生徒もよく取り組み、積極的に発言する姿勢がみられる。				A	・今後は、各個人が外部の研修等で得た知識・技能を職員全体で共有していくことで、全体のレベルアップにつなげる。
	日々の教材研究、授業改善を視点とした校内研究・研修を通して、工夫ある指導法を身に付ける。	・管理職や指導教諭、ベテラン教諭による指導を通して、日々、指導力の向上に取り組んでいる。 ・常日ごろから指導の振り返りを行い、生徒に適した題材選び・授業改善を心がけている。 ・長期休業中などに時間を設けて、研究会や研究発表、研修等に積極的に参加し、専門性の向上に努めている。 ・義務教育学校として前期課程、後期課程合同の教科部会を通して教材の研究開発を行っている。 ・教科指導の改善・向上を視点に、各教科部会・分科会の授業研究を計画的に実施した。 ・算数・数学、英語の少人数グループ別指導は、1つの授業を複数クラス・複数教員が同時に行うことで、指導プランについて改善点を話し合い、授業改善に取り組んでいる。					

本校と全国平均との差(+上回っている、-下回っている)

	国語A (基礎)	国語B (活用)	算数・数学A (基礎)	算数・数学B (活用)
6年生	+4.6	+8.8	+8.4	+6.9
9年生	+3.2	+4.5	+5.4	+7.1

本校と品川区平均との差

学年	国語	算数	学年	国語	算数	社会	理科	学年	国語	数学	社会	理科	英語
2年	-0.6	+2.3	4年	-3.0	-1.6	-1.9	-2.0	7年	+1.2	+1.7	+2.7	+0.4	+0.7
3年	-8.6	-4.2	5年	+5.2	+4.4	+1.7	+5.3	8年	-0.9	-4.0	+2.2	+0.4	+2.0
			6年	-0.3	+1.5	+5.1	+2.6	9年	+7.3	+7.5	+7.1	+6.9	+9.0

評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

重点目標		<p>○市民科を中心として、全教育活動を通して、児童・生徒一人一人が自らの在り方や生き方を自覚して、困難に負けることなく社会の中でよりよく生きていくための確かな実践力と、社会貢献できる資質・能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見通した市民科年間計画に基づき、児童・生徒の実態を踏まえた重点単元を設定し、市民科学習を推進する。(いじめ防止、コミュニケーション能力の育成、あいさつ、礼儀、キャリア教育など) ・義務教育学校の良さを生かした、1から9年生までの全校一致の厳しく親身な生活指導体制を確立する。 ・スクールカウンセラーや巡回相談員、関係諸機関と連携して、いじめ防止や不登校、特別な支援を必要とする児童・生徒などに組織的に対応する。 ・学校行事、生徒会活動、部活動や、合同移動教室を含めた異学年交流行事に積極的に取り組ませて、自己有用感を育てる。 ・生活面における分散化(基本的な生活習慣や規範意識の定着のばらつき)の克服のため、家庭への啓発と個別指導を強める。 			
評価指標	成果指標	成果指標の達成状況の説明		評価	今後の課題と改善策
	取組指標	取組指標の達成状況の説明			
①	保護者アンケートの項目4『市民科の授業の成果が、日常生活にも表れていますか』で、肯定評価を80%以上にする。	<p>【28年度前期】77%で下回る。 【28年度後期】79%でやや下回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わずかに到達していない。 ・市民科の授業について、学年便りで紹介した。ワークシートを掲載し保護者も取り組んでください、というような記事を載せている。 ・基本的な生活習慣や規範意識の定着のばらつきを克服するため、家庭への啓発と個別指導に努めた。 		B	・市民科の学習効果をより一層高めるため、学んだことを家庭にも発信し、保護者と連携を図っていく。
	市民科の授業を計画的に実施して、コミュニケーション能力の育成を図る。また、学んだことを家庭にも発信し、保護者との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年ではセカンドステップ(アンガーマネジメント)のスキルトレーニングを取り入れ、児童同士の望ましいかかわり方を指導している。 ・コミュニケーションスキル向上のため、年間継続して学年全体で主張大会を班予選、クラス予選、学年大会、区大会とつなげ一人一人異なる考え方をもっていることに気付かせまたそれを理解していく大切さをテーマに市民科の授業を計画、実施した。 ・入学試験での面接・自己PRなどを見据えて自己PRスピーチやストレスマネジメントを行った。またその様子については適宜学年通信で家庭に発信した。 		B	・学年、学級だより等を通じて、市民科学習についての家庭への理解促進・啓発を行う。
②	保護者アンケートの項目『学校は、児童・生徒に対し適切な生活指導(礼儀、挨拶、言葉遣い、服装、きまりなど)を行っていますか』で、肯定評価を80%以上にする。	<p>【28年度前期】92%で達成。 【28年度後期】94%で達成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活・安全部を中心に、共通理解をもって生活指導にあたっており、肯定評価92%と目標を達成している。 ・職場訪問をはじめとした対外的な行事などを機会とし、服装や、あいさつ、礼儀などの必要性を生徒に指導してきた。 		A	・今後はさらに、学校外、地域でも学校内と同じ態度で行動できるように児童・生徒の意識を高めていくことが課題である。
	教師が範を示して、すべての児童・生徒が、あいさつや礼儀、場に応じた行動をできるよう共通指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の就職を考える上でも挨拶や礼儀はとても大切なことであることを年間を通して指導してきた。 ・挨拶や時と場合に適した行動を教師が率先して行い、児童・生徒に範を示してきた。また、どうしてそのような行動が求められるのか分かりやすく説明してきた。 ・毎朝、オープンスペース(教室前廊下)に立ち生徒の顔を見ながら一人一人にあいさつを行ってきた。 		B	・全教職員で共通の指導をするために明確で具体的な指導目標を定め、それを徹底していく。

評価項目3 (体力・健康に関すること)

重点目標		<p>○「運動をするための体力」「健康に生活するための体力」の双方を向上し、次世代を担う子供たちをはぐくむ。(アクティブプランto2020の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都統一体力テストを分析、活用する。 ・体育授業の改善・充実を図る。 ・品川スポーツトライアル、ワンミニッツエクササイズを推進する。 ・体力向上の原則である基本的な生活習慣の定着に向け、健康教育を充実するとともに、体育授業や学校行事を通じて、運動そのものの楽しさを味わわせ、継続的に運動に取り組ませる。(前期課程) ・一校一取組、一学級一実践運動に確実に取り組む。外遊びを励行する。(前期課程) ・生涯にわたり運動する習慣が身に付くよう、保健体育の授業において基礎的な知識及び技能を習得させる。(後期課程) ・体力向上努力月間やオリンピック・パラリンピック教育を推進する。 			
評価指標	成果指標	成果指標の達成状況の説明		評価	今後の課題と改善策
	取組指標	取組指標の達成状況の説明			
①	東京都統一体力テストの「体力・運動能力」項目全てで、都の平均値を上回る。	<p>【28年度実施】※上回った運動能力</p> <p>男子 1年:3/8、2年:4/8、3年:1/8、4年:3/8、5年:4/8、6年:2/8、7年:3/9、8年:6/9、9年:5/9</p> <p>女子 1年:2/8、2年:2/8、3年:1/8、4年:3/8、5年:0/8、6年:6/8、7年:4/9、8年:7/9、9年:4/9</p> <p>・8年生では多くの項目において東京都の平均を上回った。また、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、持久走、20mシャトルラン、50m走、体力合計において全国平均を上回った。</p> <p>・オリパラ教育において、取組1年目ということで、組織的・計画的な指導がまだ十分なされていないと言えないが、次年度に向けてのベースはできているので、更に推進していく必要がある。</p>		B	<p>・オリパラ教育については理解が不十分かつ開始して間もないので、効果的といえるような取組を行えなかった。今後、充実を図っていく。</p> <p>・ワンミニッツエクササイズについて、今後は前期課程での取組を後期課程へと広げていく。</p>
	体育授業・学校行事の工夫改善、オリパラ教育、品川スポーツトライアル・ワンミニッツエクササイズの推進、保健指導により運動や健康への関心を高める。	<p><オリパラ教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民科の中で、五輪の歴史、アスリートの活躍、異文化等について指導した。「ピクトグラム」等、オリンピックを機に発明されたものなど、文化的な側面についても指導した。 <p><品川スポーツトライアル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班のメンバーでペアを組み取り組んだ。担任から児童に声を掛け、積極的な挑戦を促した。 <p><ワンミニッツエクササイズ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも種目数を増やして実施した。結果を掲示するなどの工夫をすることで体力向上への意欲を高めた。さらに、保護者会で説明し、学校、家庭で連携した取り組んだ。 		B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 (品川コミュニティ・スクールの推進と保護者・地域との連携に関すること)

重点目標		<p>○学校を核として、義務教育9年間で支える取組を推進し、家庭、地域、学校間の連携を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区教育協働委員会は、学校運営の基本方針を承認し、教育活動を評価する。また、学校支援活動の企画・調整をする。 ・学校支援地域本部は、本校が必要とする教育活動の支援をし、地域の教育力の活性化を図る。 ・学校地域コーディネーターは、本校が必要とする支援について適切な学校支援ボランティアを派遣し、学校と地域をつなぐ役割を果たす。 ・市民科と関連付けて地域行事へ参加させるとともに、職場体験など地域との連携に基づいた教育活動を充実させる。 ・ウェブページの毎日の更新と、学校便り「鐘の鳴る学舎」の月1回の発行、学校公開(年21回)、学校説明会(年2回)を実施する。 ・PTAの各機能を再確認して、役員や部員だけでなく、一般会員が協力できるシステムを構築する。 			
評価指標	成果指標	成果指標の達成状況の説明		評価	今後の課題と改善策
	取組指標	取組指標の達成状況の説明			
①	地域人材を活用した学習を一学年二取組以上実施する。	・地域人材、保護者ボランティアを活用した学習を全学年で複数回実施できた。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や保護者と連携した取組は、コミュニティ・スクール化する前から行われている。これらをコーディネーターの協力のもと、より一層充実させていく。 ・これまで教職員のみで実施してきたものについて、地域の力を活用することで教育効果の向上が期待できるものはないかを再検討し、コミュニティ・スクールとしての強みを生かした実践を増やしていく。
	コミュニティ・スクールの取組を生かし、保護者や地域の力を生かした教育活動を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2人のコーディネーターとの連携が深まっており、各学年の様々な教育活動において、多くの保護者や地域の方々にボランティアとして支援していただいている。 <p><具体的な取組(主なもの)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化伝統に親しむ日、お手伝い体験、交通安全歩行訓練(1年生) ・お手伝い体験、地域の方から学ぶ昔遊び(2年生) ・社会科見学、席書会、茶道(3, 4年生) ・低学団読み聞かせ(1~4年生) ・お箏体験(5年生) ・ドリームジョブ(6年生) ・赤ちゃんふれあい学習(6年生) ・家庭科のグループ学習(5, 6年生) ・町会との交流会、職場訪問(7年生) ・職場体験(8年生) <p style="text-align: center;">等</p>		B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (いじめ防止に関すること)

重点目標		<p>○いじめは絶対に許さないという基本姿勢を児童・生徒・保護者に示し、いじめのない児童・生徒の自主性に富んだ教育活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民科において、毎月末に「いじめ防止プロジェクトin伊藤学園」を実施して、いじめが人権侵害であることを理解させるとともに、スキルトレーニングを通してよりよい人間関係を作るための方法を考えさせ、発信できるようにさせていく。 ・5、10、2月実施の無記名アンケートから学級の雰囲気把握・分析するとともに、学期に1回の記名アンケートとその後の個人面談を行い、早期発見と早期解決を目指す。 ・市民科モデル実践校として、いじめ防止プログラム(スクールバディ・プログラム)とhyperQU(学級集団アセスメント)を4・7年で実施する。7・8年生有志を対象に、スクールバディ養成研修を実施する。また、児童や学級の状況を継続して把握するためにhyperQUを5・6年でも実施する。 ・地域健全育成運営協議会を年3回実施し、保護者や地域と連携して、いじめをなくす取組について理解と協力を得て、地域ぐるみでいじめを根絶する風土作りを行う。 ・スクールバディの活動を充実させる。 																																																																			
評価指標	成果指標	成果指標の達成状況の説明						評価	今後の課題と改善策																																																												
	取組指標	取組指標の達成状況の説明																																																																			
①	生活アンケート(5・10・1月無記名実施)で「学校生活は楽しい」の肯定的な回答を80%以上にする。また、友人関係に関する質問への否定的な回答を全項目で20%以下とする。	<p>「学校生活が楽しい」という項目の肯定的な回答が80%以上の学級数</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>1-4年</th> <th>5-7年</th> <th>8-9年</th> <th>ひまわり</th> <th>6組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月</td> <td>10/10</td> <td>6/10</td> <td>7/9</td> <td>1/1</td> <td>0/1</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>8/10</td> <td>3/10</td> <td>6/9</td> <td>1/1</td> <td>1/1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>2-5年</th> <th>6-8年</th> <th>9年</th> <th>ひまわり</th> <th>6組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>10/11</td> <td>7/10</td> <td>4/4</td> <td>1/1</td> <td>1/1</td> </tr> </tbody> </table> <p>友人関係に関する質問への否定的な回答が全項目で20%以下の学級数</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>1-4年</th> <th>5-7年</th> <th>8-9年</th> <th>ひまわり</th> <th>6組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月</td> <td>5/10</td> <td>6/10</td> <td>7/9</td> <td>1/1</td> <td>0/1</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>6/10</td> <td>3/10</td> <td>6/9</td> <td>1/1</td> <td>1/1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>2-5年</th> <th>6-8年</th> <th>9年</th> <th>ひまわり</th> <th>6組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>8/11</td> <td>10/10</td> <td>4/4</td> <td>1/1</td> <td>1/1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※表中の数値は「達成学級数/全学級数」で表記 ※学年進行後も同集団を追跡調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に比べ、目標を達成した学級数が増えた。 						H28	1-4年	5-7年	8-9年	ひまわり	6組	10月	10/10	6/10	7/9	1/1	0/1	1月	8/10	3/10	6/9	1/1	1/1	H29	2-5年	6-8年	9年	ひまわり	6組	5月	10/11	7/10	4/4	1/1	1/1	H28	1-4年	5-7年	8-9年	ひまわり	6組	10月	5/10	6/10	7/9	1/1	0/1	1月	6/10	3/10	6/9	1/1	1/1	H29	2-5年	6-8年	9年	ひまわり	6組	5月	8/11	10/10	4/4	1/1	1/1	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大事に至らなかったものの、友人関係のトラブルや、乱暴な態度・言葉遣いなどは時折見られた。問題行動については、即時、毅然とした態度で指導していくとともに、問題の原因究明を丁寧に行い、生徒に寄り添い、解決していくことで、再発の防止を図る。 ・全教職員一丸となって児童・生徒の心の健康を第一に考え、互いを認め合う関係づくりに尽力してきた。今後も、発達段階に応じて、互いの長所や違いを認め合う場を意図的・計画的に設定し、思いやりのある集団作りを進めていく。 ・教員と保護者や保護者同士が日頃からコミュニケーションを取っていたため、トラブルを早期に解決できた。今後も保護者と協力しながら、多くの目で児童・生徒を見守っていく。
	H28	1-4年	5-7年	8-9年	ひまわり	6組																																																															
	10月	10/10	6/10	7/9	1/1	0/1																																																															
1月	8/10	3/10	6/9	1/1	1/1																																																																
H29	2-5年	6-8年	9年	ひまわり	6組																																																																
5月	10/11	7/10	4/4	1/1	1/1																																																																
H28	1-4年	5-7年	8-9年	ひまわり	6組																																																																
10月	5/10	6/10	7/9	1/1	0/1																																																																
1月	6/10	3/10	6/9	1/1	1/1																																																																
H29	2-5年	6-8年	9年	ひまわり	6組																																																																
5月	8/11	10/10	4/4	1/1	1/1																																																																
未然防止の高い意識を継続し、児童・生徒理解を深め、市民科授業や学校行事等を通して、思いやりのある集団づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談、生活記録ノートの交換や、日常的な会話等を通して、実態把握に努めている。 ・学習や行事の終わりに、活動の振り返りを行い、児童・生徒にお互いのよいところを見つけ合わせた。友達に認められる経験が自信につながり、次の活動にも意欲的に取り組む姿が見られた。 ・思いやりのある集団づくりの雰囲気があり、それが授業・学校行事に表れていた。 ・生徒の自主性、自己有用感を高めることをねらいとして、市民科、学校行事、学年行事の際に、実行委員等を立ち上げて生徒の活躍の場を設定している。教師はそこで、イラストが上手な生徒、スポーツが好きな生徒等、それぞれの個性が発揮されるよう配慮している。 						B																																																														
早期発見、早期対応、保護者との連携、組織的な対応を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・無記名生活アンケート以外に、記名式生活アンケートを全学年で1～3学期の各学期で1回ずつ実施し、それに基づいて二者面談を行っている。この取組によって、いじめの早期発見・早期対応につながっている。 ・生活面談がなくとも、児童から話を聞ける体制、聞く姿勢を常にもっている。何か問題があれば、すぐに学年主任や保護者に連絡をして対応している。 ・気になる児童・生徒がいた場合には、担任・学年と情報交換を行っている。 ・休み時間には、どの学年の教員も一人以上は教師コーナーにおり、児童・生徒の様子をしっかりと見守るとともに、気になる言動が見られた場合に、すぐに対応できる体制をつくっている。 ・何かトラブルや気になることがあった際はすぐに学年、管理職に報告・相談し、保護者にも連絡をしている。 						B																																																														

評価項目6 (小中一貫教育や学校独自の特色ある教育活動に関すること)

重点目標		<p>○義務教育学校だからこそできる教科・市民科指導を創意工夫するとともに、異学年交流の内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のために、教科や学年分科会で、教科指導の工夫や授業技術の向上を目指した研究を進める。 ・市民科モデル実践校として、いじめ根絶を目指した心の教育のための研究を行い、それを進める中で、PDCAのマネジメントサイクルを活用して、授業とカリキュラムの改善を図っていく。 ・学校行事と異学年交流活動等についても同様に、マネジメントサイクルを活用した見直しと充実を図り、児童、生徒、教職員、保護者、地域の方が充実感を味わえるものにする。 ・連携校とは、6年の合同市民科、伊藤学園における6年の体験授業など、連携活動の創意工夫を進める。 <p>※異学年交流活動＝交流授業、縦割り班活動、交流給食、合同移動教室、9年生による1年生のお世話など</p>			
評価指標	成果指標	成果指標の達成状況の説明		評価	今後の課題と改善策
	取組指標	取組指標の達成状況の説明			
①	保護者アンケートの項目1「お子さんは、学校生活を楽しくしていますか」で、肯定評価を95%以上にする。	<p>【28年度前期】93%で、目標値をやや下回る。</p> <p>【28年度後期】93%で、目標値をやや下回る。</p>		B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学団も行事で交流しているが、時数や規模の大きさ等から、定期的には行えず、回数も多くはできていない。 ・今後、5, 6年生と低学団との交流の場を充実させていくことが課題である。
	市民科学習や学校行事、異学年交流を工夫することによって、児童・生徒が充実感を味わえるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における「楽しい」とは、個、集団を問わず、目標達成とそこへ至る取組の中にあると捉え、児童・生徒の主体性を尊重しつつ、意義のある活動になるよう市民科学習、行事等の充実を図ってきた。 ・交流活動が、新たな自己の発見や自己有用感の向上につながるよう、目的、発達段階、相互の関係性に応じて、活動内容を工夫し効果の最大化を図ってきた。 <p><交流活動の具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園児との交流(1年生) ・高齢者との交流(2年生) ・たてわり班活動(1～4年生) ・1年生の給食お手伝い(4年生) ・4年生への中学団生活の紹介(5年生) ・1年生への読み聞かせ(6年生) ・赤ちゃんお世話体験(6年生) ・連携小学校との合同市民科授業(6年生) ・中学団スポーツ大会(5・6・7年生) ・合同宿泊行事(5, 8年生) ・1年生のお世話(9年生) ・通常学級と特別支援学級の交流(全学年) ・特別支援学級の前期課程と後期課程との交流 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・開校10年が経過して、さまざまな行事や交流が馴染んでいる。前後期の課程にまたがる交流も何年にも渡って行われ、伊藤学園の良き伝統になっている。現在ある宝を共有し、より充実させていきたい。

A＝十分達成できた B＝おおむね達成できた C＝未達成